

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>地域創生及び雇用促進に向けて、家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、地域の未来を拓く水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 進路について、就職では、16年連続内定率100%、進学では、第一志望合格率が90.7%に上るとともに、国公立大学に25年連続の合格となった。 質の高い授業（実習）と向上心が、全国初となる全校大会3冠（カッターレース大会 2連覇、食品技能コンテスト 総合優勝、生徒研究発表大会 最優秀賞）につながるとともに、「京都大学アカデミックデイ2017」に、高校生として唯一の出場を果たすなど全国規模での活躍が続いた。 資格取得では、マリンマイスター顕彰制度において、上位を独占するとともに、全国最高点を収めた。 京都府教育委員会教育長表彰の対象生徒が88.5%、総数は939件に達し、専門教育を推進する力になるとともに、生徒の学習意欲を向上させた。 食品経済コースが開発した鯖缶「京の鯖」が高い評価を受け、1年間の出荷が37,056缶となった。 部活動加入率が99%という府内でも際立つ水準を維持し、国際大会出場を含め、全国・近畿レベルの大会に出場した生徒は延べ120人（全校生徒比2.2人に1人）に上り、高い目標を設定し、達成に向けて切磋琢磨する文化を根付かせることができた。 ボランティア活動に積極的に取り組んでおり、昨年度、105回の活動に延べ6,826人が参加し、豊かな人間性を育むとともに、地域の活性化に貢献した。 前期1.77倍、中期選抜1.41倍という高倍率となり、昨年度に続き、教育活動が評価を受けるとともに、広報活動が奏効した。 HPの充実を図り、アクセス数が過去最多の148万件超（昨年度比1.5倍超）となり教育活動を広範囲に発信することができた。 テレビ放映25回、ラジオ放送7回、新聞等掲載123回と、取材が過去最多となり、生徒募集の力となった。 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）に2,675人、コラボ推進プログラム（京都府立青少年海洋センター及び丹後海と星の見える丘公園利用者対象の事業）に90人、出前授業に359人の児童・生徒が参加し、キャリア教育の一環として水産・海洋に関する理解を深めた。 教職員の資質・能力の向上の観点から、公開授業の活性化、他校への授業見学、予備校教員セミナーへの参加等に意欲的に取り組み、授業力向上に対する意識を高めることができた。 海洋プロジェクト（体系的な進路に係る学習及び指導）を通して組織的な指導を行い、学年全体の学力や意識が向上し、府立高校実力テストにおいて高い伸び率を見せた。 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 学力向上と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> 徹底した教材研究により授業（実習）を改善するとともに、海洋プロジェクトにより「背伸びする進路」を目標として掲げさせる。 早期から指導を行い、多分掌が関わるなか、学力に課題がある生徒に対して支援の余地を残さない。 学習する「習性」を身に付けさせ、安定して学習と向き合う生徒を育む。 新学習指導要領が重視する学力観に基づき、大学入学共通テストに向けた指導及び多面的評価に取り組む。 基本的な生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> 規範意識の徹底 生徒指導に対する基準を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、課題のある生徒に対して指導の余地を残さない。 挨拶・マナーの徹底 日常の学校生活を「面接試験」の意識で過ごすことにより、「いつ」「どこでも」「誰に対しても」挨拶できる生徒を育てる。 下宿生、寮生に対する指導の徹底 下宿管理者と連携し、多様な指導を通して下宿生の自立支援を行う。寮生に、常に模範生としての言動を心がけさせる。 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> 人権意識の育成 指導シラバスに則り、体系的に全体指導を行うとともに、突発的な事象に対して、個々の内面に迫る指導を行う。 自己有用感の育成 自己有用感の育成に向け、「居場所」と「出番」を意識した教育活動を展開するとともに、日常の声かけを重視する。 主体性の育成 生きる真の力として主体性を重視し、自らの意志で主体的に行動し、さまざまなことに積極的に挑戦する逞しさを育む。 「目的」意識の育成 諸活動の「目標」の先にある「目的」を認識させ、人として確かな成長につなげる。 思考力・表現力・集中力の育成 読書活動の推進を通してことばの力を向上させ、生涯にわたって豊かな人生を歩む礎を築く。 さらなる高みを目指す専門教育の推進 常軌を逸した発想力と想定外への対処力により、社会に埋もれた研究の原石を発掘し、地域に新たな価値を創出する。 安心・安全の徹底 <ol style="list-style-type: none"> 命と隣り合わせの実習が多いため、常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認の徹底を図る。 自転車通学における交通ルールへの遵守、安全第一を徹底する。 社会情勢の変化に対応した広報活動 生徒数減少の中、専門学科の利点を前面に打ち出すとともに、他府県への広報を強化し、生徒募集において確かな結果を残す。 同僚性の推進 OJTの観点から、学科・コース、教科、分掌内において同僚性をさらに推進し、「チーム海洋」として資質・能力の向上を図る。 外部機関との連携 水産・海洋関連産業や外部機関との連携をさらに推進し、最先端の分野に触れるとともに、地域の活性化や雇用創出に貢献する。
前年度の成果と課題（続）		
<p>6 定期考査前に比べ、平日の学習時間が伸びておらず、真の学力につながっていない現状がある。</p>	<p>10 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）に2,675人、コラボ推進プログラム（京都府立青少年海洋センター及び丹後海と星の見える丘公園利用者対象の事業）に90人、出前授業に359人の児童・生徒が参加し、キャリア教育の一環として水産・海洋に関する理解を深めた。</p>	
本年度学校経営の重点（続）		
<p>9 家庭・地域との連絡及び連携の強化 ホームページのメニュー「お知らせ」に、生徒への連絡事項、配布プリント等を掲載し、本校教育に対する理解、協力を得る。</p>	<p>11 教職員の資質・能力の向上の観点から、公開授業の活性化、他校への授業見学、予備校教員セミナーへの参加等に意欲的に取り組み、授業力向上に対する意識を高めることができた。</p>	
<p>10 働き方改革の推進 働き方改革の理念に則り、生徒の多様化に対応できる、豊かな資質を育む時間確保に努める。</p> <p>11 日本海南部地区水産高等学校水産教育研究協議等の成功 本校が主管校となって実施する事業を成功に導く。</p>	<p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 「生徒指導アンケート」を導入するなど、規範（人権）意識の高揚を図り、指導事象が減少したが、全生徒の1/3の下宿生が、指導事象の半分を占めている。 学校外において、海洋生として自覚ある言動が維持できない弱さを見せる生徒がいる。 多様な生徒が入学してくる現状を踏まえ、進級及び進路保障の観点から指導体制を強化するとともに、指導状況を共有する。 3年次2学期、進路が決定した後、学習意欲を低下させ、成績を下げる生徒が見られた。 主体的・対話的で深い学びに係る研修への参加を促したが、手法や効果等の面で課題が見え、さらに研究を重ねていく。 	

平成30年度 府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）〔各分掌・教科等〕

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																																
組織・運営	<p>京都府教育委員会の指定事業「スペシャリストネットワーク京都」を活用し、すべての生徒の自信や誇りに繋がる専門教育を展開するとともに、特色ある教育活動の広報に努め、魅力ある学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検し指導することにより、高い達成状況を実現する。 [学校経営計画実施段階における具体的方策の評価A+Bの割合] <table border="1" data-bbox="790 308 1489 367"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>90%以上</td><td>80~89%</td><td>70~79%</td><td>70%未満</td></tr> </table> 特色ある教育活動を推進するとともに、専門教育の魅力中学生及びその保護者に発信することにより志願者数の増加を図る。 [新聞等メディアでの採用回数] (昨年度155回) <table border="1" data-bbox="790 480 1489 539"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>181回以上</td><td>161~180回</td><td>140~160回</td><td>140回未満</td></tr> </table> [平成31年度入学者選抜(前期選抜)における志願倍率] (昨年度1.77倍) <table border="1" data-bbox="790 598 1489 657"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>2.0以上</td><td>1.8~1.9</td><td>1.6~1.7</td><td>1.6未満</td></tr> </table> 学校評価アンケートにおける「学校と保護者の連携は十分に行われている。」の項目の「やや当てはまる」以上の回答割合を増加させる。 [学校評価アンケート「よく当てはまる」「やや当てはまる」の割合] (昨年度80%) <table border="1" data-bbox="790 778 1489 837"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>90%以上</td><td>85~89%</td><td>80~84%</td><td>80%未満</td></tr> </table> 	A	B	C	D	90%以上	80~89%	70~79%	70%未満	A	B	C	D	181回以上	161~180回	140~160回	140回未満	A	B	C	D	2.0以上	1.8~1.9	1.6~1.7	1.6未満	A	B	C	D	90%以上	85~89%	80~84%	80%未満		
	A	B	C	D																																
	90%以上	80~89%	70~79%	70%未満																																
	A	B	C	D																																
181回以上	161~180回	140~160回	140回未満																																	
A	B	C	D																																	
2.0以上	1.8~1.9	1.6~1.7	1.6未満																																	
A	B	C	D																																	
90%以上	85~89%	80~84%	80%未満																																	
<p>シティズンシップ教育を推進するとともに、望ましい規範意識や人権感覚を備えた生徒の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 下宿生の特別指導件数を減少させる。 [下宿生の特別指導件数の減少割合] <table border="1" data-bbox="790 927 1489 995"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>50%以上減</td><td>30~49%減</td><td>10~29%減</td><td>10%未満の減</td></tr> </table> 	A	B	C	D	50%以上減	30~49%減	10~29%減	10%未満の減																											
A	B	C	D																																	
50%以上減	30~49%減	10~29%減	10%未満の減																																	
<p>教職員研修を積極的に推進し、教科指導力を始めとした教育職員としての資質を高めることにより、総合的な教育力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合教育センターが開催する研修講座等の受講を推進する。 [延べ年間受講回数] (初任者、2年目、中堅教諭等資質向上研修を除く。) <table border="1" data-bbox="790 1086 1489 1155"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>42回以上</td><td>37~41回</td><td>22~36回</td><td>22回未満</td></tr> </table> 	A	B	C	D	42回以上	37~41回	22~36回	22回未満																											
A	B	C	D																																	
42回以上	37~41回	22~36回	22回未満																																	
総務企画部	<p>京都府内外を問わず、多くの小中学校、保護者、地域の方々に本校の魅力ある教育活動を様々な手段を用いて発信し、目的意識や学習意欲の高い生徒の出願につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学3年生対象の学校説明会で、参加者数の増大を図る。 [参加者数] (一昨年度465人) <table border="1" data-bbox="790 1246 1489 1315"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>500人以上</td><td>470~499名</td><td>440~469名</td><td>440名未満</td></tr> </table> ホームページの更新及びアクセス数増加に努める。 [ホームページへのアクセス数] (昨年度148万件) <table border="1" data-bbox="790 1406 1489 1474"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>160万回以上</td><td>150~159万回</td><td>140~149万回</td><td>140万回未満</td></tr> </table> 	A	B	C	D	500人以上	470~499名	440~469名	440名未満	A	B	C	D	160万回以上	150~159万回	140~149万回	140万回未満																		
A	B	C	D																																	
500人以上	470~499名	440~469名	440名未満																																	
A	B	C	D																																	
160万回以上	150~159万回	140~149万回	140万回未満																																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
総務企画部		<ul style="list-style-type: none"> 地域に対する教育活動の発信を充実させる。 [地域回覧板による情報発信件数] (昨年度30件) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70件以上</td> <td>46～69件</td> <td>26～45件</td> <td>26件未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70件以上	46～69件	26～45件	26件未満		
	A	B	C	D								
70件以上	46～69件	26～45件	26件未満									
	「人権」について生徒一人一人が考え、正しい判断を持ち行動できるように、生徒指導部や学年部と連携を図りながら個々の内面に響く指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にも人権アンケートを実施し、人権意識の向上を図る。 [生徒の人権意識向上率] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>85～99%</td> <td>70～84%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	85～99%	70～84%	70%未満		
A	B	C	D									
100%	85～99%	70～84%	70%未満									
教務部	分掌内の連携を強化し、働き方改革を意識した業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 教務部内の連携を強化し、共通認識を持って職務に当たることで互いを補完し、業務の効率化と正確な業務の遂行を推進する。 [教務部会の実施回数/年] (昨年度25回) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>26回以上</td> <td>22～25回</td> <td>18～21回</td> <td>18回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	26回以上	22～25回	18～21回	18回未満		
	A	B	C	D								
	26回以上	22～25回	18～21回	18回未満								
	新学習指導要領を考慮し、主体的・対話的で深い学びにつながる教育実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の公開授業週間を新しい教育実践の場と位置づけ、各教科で新しい指導及び評価方法を研究し、次世代教育に対応する授業力の向上に努める。 [実施率 実施教員/全教員(ただし、非常勤講師を除く)](昨年度48%) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70%以上</td> <td>50～69%</td> <td>30～49%</td> <td>30%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	50～69%	30～49%	30%未満		
A	B	C	D									
70%以上	50～69%	30～49%	30%未満									
学習姿勢や状況を点検し、その意義を日常から生徒に伝え、計画的・主体的に学習に向かわせることで学力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 新たに学習点検簿の活用や日々の巡回指導、定期考査前の学習時間調査等を実施し、学習指導を推進する。 [定期考査前の1日の平均学習時間] (昨年度3.0時間) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.3時間以上</td> <td>3.0～3.2時間</td> <td>2.7～2.9時間</td> <td>2.7時間未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.3時間以上	3.0～3.2時間	2.7～2.9時間	2.7時間未満			
A	B	C	D									
3.3時間以上	3.0～3.2時間	2.7～2.9時間	2.7時間未満									
「一人でも多く、一冊でも多く」をスローガンに読書習慣を身に付けさせることで、本離れの現状を改善し、豊かな心を育むとともに、深い知識等を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 現状を分析しながら、全校生徒に対して読書に向かわせる取組(表彰制度等)を推進し、読書習慣を獲得させる。 [生徒1人当たりの1年間の読書数、平均] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8冊以上</td> <td>6・7冊</td> <td>4・5冊</td> <td>4冊未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8冊以上	6・7冊	4・5冊	4冊未満			
A	B	C	D									
8冊以上	6・7冊	4・5冊	4冊未満									
生徒指導部	生徒と教職員の信頼関係の構築を基盤に、人権意識と規範意識を高めるシティズンシップ教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への入部を促し、年間を通して部活動に参加する生徒を増やすことを目標とし、生徒の実績作りと学校の活性化を目指す。 [部活動参加者率] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>99%</td> <td>98%</td> <td>98%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	99%	98%	98%未満		
		A	B	C	D							
100%	99%	98%	98%未満									
	<ul style="list-style-type: none"> 下宿管理者へのアンケートを実施し、気になる内容については、保護者や学年、関係分掌と連携を図り、下宿生への指導に活用する。 [アンケート実施回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>4回以上</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	4回以上	3回	2回	1回			
A	B	C	D									
4回以上	3回	2回	1回									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
生徒指導部	生徒指導部の取組情報の発信を行い本校教育に対する理解と協力を求め、信頼される学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、ボランティア活動、下宿生活の様子等を活発にホームページに掲載する。 [ホームページ掲載回数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55回以上</td> <td>45～54回</td> <td>35～44回</td> <td>35回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	55回以上	45～54回	35～44回	35回未満		
A	B	C	D									
55回以上	45～54回	35～44回	35回未満									
進路指導部	3年間を見通した一貫性のある進路指導体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種進路指導を「海洋プロジェクト」として展開し、効果的な進路指導を実現する。 [進路意識調査に対する満足度] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>95～99%</td> <td>90～94%</td> <td>90%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	95～99%	90～94%	90%未満		
	A	B	C	D								
	100%	95～99%	90～94%	90%未満								
	学年に応じた進路意識を定着させるとともに、スタディサプリ等を活用して希望進路を実現するとともに社会生活で求められる学力や表現力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間「キャリアチャレンジ」等を活用した進路学習を展開し、希望進路を早期に確定する。 [2年生3学期における志望先の決定状況] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>95～99%</td> <td>90～94%</td> <td>90%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	95～99%	90～94%	90%未満		
A		B	C	D								
100%		95～99%	90～94%	90%未満								
<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間「キャリアチャレンジ」を活用して、高校生に求められる基礎学力の定着を図る。 [3年生11月期における到達度テスト(数学)の得点率] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>60～69%</td> <td>50～59%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70%以上	60～69%	50～59%	50%未満				
A	B	C	D									
70%以上	60～69%	50～59%	50%未満									
<ul style="list-style-type: none"> スタディサプリの「よのなか科」等を活用してプレインストーミングを行い、受験や社会生活で求められる「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」等を向上させる。 [「よのなか科」の実施回数] (昨年度4回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15回以上</td> <td>12～14回</td> <td>9～11回</td> <td>9回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	15回以上	12～14回	9～11回	9回未満				
A	B	C	D									
15回以上	12～14回	9～11回	9回未満									
学年部を始め関係分掌と連携し、進路実現に向けての統一した指導を実践し、希望進路を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路を実現させる。昨年度とても高い数字となったが、今年度も高いレベルを維持したい。 [就職における一次内定率] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>85～89%</td> <td>80～84%</td> <td>80%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	85～89%	80～84%	80%未満			
A	B	C	D									
90%以上	85～89%	80～84%	80%未満									
	[進学における第1希望校合格率] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>80～89%</td> <td>70～79%</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	80～89%	70～79%	70%未満			
A	B	C	D									
90%以上	80～89%	70～79%	70%未満									
保健部	校内点検を行い、改善が必要な箇所は事務部と連携して安全・安心な環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の清掃について、保健部が定期的に清掃点検をする。 [清掃点検の回数/年] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20回以上</td> <td>16～19回</td> <td>13～15回</td> <td>13回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20回以上	16～19回	13～15回	13回未満		
A	B	C	D									
20回以上	16～19回	13～15回	13回未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																	
保健部	環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員や環境美化委員の活動を活性化させ、校内美化に努める。 [保健委員会・環境美化委員会活動実施回数/年] (昨年度5回) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>8・9回</td> <td>6・7回</td> <td>6回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	8・9回	6・7回	6回未満											
	A	B	C	D																	
10回以上	8・9回	6・7回	6回未満																		
	身体測定や各種検査、委員会活動等、学校の様子を広く外部に発信し、保護者の理解、協力を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報発信を計画的に行う。 [ホームページ更新の各項目における回数/年] (昨年度2回) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>12回以上</td> <td>9～11回</td> <td>6～8回</td> <td>6回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	12回以上	9～11回	6～8回	6回未満											
A	B	C	D																		
12回以上	9～11回	6～8回	6回未満																		
事務部	徹底した教材研究により改善された授業及び実習を展開するための予算執行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、分掌、学科、コース予算及び各種事業費予算について、効果的に活用するために早期の執行を促し、連携に努めながら、より効果的な研究活動の推進や学力向上に寄与する [12月末の教科・分掌予算執行率] (昨年度75%) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80～89%</td> <td>70～79%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80～89%	70～79%	70%未満											
	A	B	C	D																	
	90%以上	80～89%	70～79%	70%未満																	
	教職員間の連携を密にし、安心・安全な教育環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備について、安全点検を行い安心・安全な教育環境を維持し、事故の防止に努める。 [1年間の点検回数と改善率] (昨年度点検9回、改善78%) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>12回以上</td> <td>10・11回</td> <td>8・9回</td> <td>8回未満</td> </tr> <tr> <td>[点検]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>[改善]</td> <td>90%以上</td> <td>70～89%</td> <td>50～69%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	12回以上	10・11回	8・9回	8回未満	[点検]				[改善]	90%以上	70～89%	50～69%	50%未満		
A	B	C	D																		
12回以上	10・11回	8・9回	8回未満																		
[点検]																					
[改善]	90%以上	70～89%	50～69%	50%未満																	
	家庭への連絡等の情報発信を行い、家庭との連携の強化を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭（保護者）向けに援護制度や納入金等の諸案内について、ホームページを積極的に利用し、円滑な周知を図る。 [家庭（保護者）向けのホームページ掲載回数] (昨年度15回) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>24回以上</td> <td>18～23回</td> <td>12～17回</td> <td>12回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	24回以上	18～23回	12～17回	12回未満											
A	B	C	D																		
24回以上	18～23回	12～17回	12回未満																		
みずなぎ	航海実習においては気象、船舶の状態、健康管理に十分留意し、余裕のある航海を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 荒天時における避難港を予め準備する。 [国際・国内航海実習における避難港準備数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6港以上</td> <td>5港</td> <td>4港</td> <td>4港未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6港以上	5港	4港	4港未満											
	A	B	C	D																	
6港以上	5港	4港	4港未満																		
	船舶コースと連携し、アカムツの改良網について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> 実習担当教員等との連携を深め、知識や技術の向上に努める。 [学校外機関を含めた打合せ等の回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	3回未満											
A	B	C	D																		
5回以上	4回	3回	3回未満																		
寮務部	保護者や地域の皆様の御理解、安心につながるよう、生活の様子等のホームページ発信を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの発信を活発に行う。 [ホームページの発信回数（平均/月）] (昨年度3回/月) <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	3回未満											
A	B	C	D																		
5回以上	4回	3回	3回未満																		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
寮務部	奉仕活動やボランティア活動に積極的に参加し、自主性と貢献の精神を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 各自に奉仕活動、ボランティア活動日誌を作らせ、参加を励行させる。 [奉仕活動、ボランティア活動の参加日数(年間1人につき)] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41日以上</td> <td>31~40日</td> <td>21~30日</td> <td>21日未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	41日以上	31~40日	21~30日	21日未満										
A	B	C	D																	
41日以上	31~40日	21~30日	21日未満																	
第1学年部	<p>基本的な生活習慣や家庭学習する習性の確立を図り、進路実現に向け学力の伸長を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学力伸長の取組を図り、成績上位層を伸ばす。 [成績会議での成績優秀者(8.0以上)の人数] (クラス平均) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8名以上</td> <td>6・7名</td> <td>4・5名</td> <td>4名未満</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 1年次から希望進路の実現を見据え、資格取得を促進させる。 [1人当たりの資格、検定取得数(平均:小数点以下切り捨て)] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4個以上</td> <td>3個</td> <td>2個</td> <td>2個未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	8名以上	6・7名	4・5名	4名未満	A	B	C	D	4個以上	3個	2個	2個未満		
	A	B	C	D																
	8名以上	6・7名	4・5名	4名未満																
	A	B	C	D																
4個以上	3個	2個	2個未満																	
<p>学校生活を通して、社会人として必要な資質や主体性を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に加入するだけでなく、積極的に参加する生徒の割合を高める。 [部活動参加率を月ごとに調査した参加率] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91~100%</td> <td>81~90%</td> <td>70~80%</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	91~100%	81~90%	70~80%	70%未満											
A	B	C	D																	
91~100%	81~90%	70~80%	70%未満																	
<p>さまざまな教育活動を通して自己有用感や人権意識を育み、生徒一人一人の内面からの規範意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会やホームルーム活動を通して、他者を認め、尊重する態度を育む機会を積極的に設ける。 [人権に関わる学年独自の取組の回数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8回以上</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>6回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	8回以上	7回	6回	6回未満											
A	B	C	D																	
8回以上	7回	6回	6回未満																	
<p>生徒一人一人の学習・生活面での課題を早期に把握するとともに、保護者との連絡を密にし、生徒・保護者・学校がともに同じ目線で進めるよう連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭連絡を密にし、1人当たり3回以上の電話連絡・面談を行う。 [保護者面談・連絡の回数(1人当たり3回以上の達成率)] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95~100%</td> <td>90~94%</td> <td>84~89%</td> <td>84%未満</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の学習・生活面での課題を早期に把握するとともに、進路実現に繋がる学科・コース選択を行う。 [生徒面談面談の回数(1人平均)、学年部] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回以上</td> <td>9回</td> <td>8回</td> <td>8回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95~100%	90~94%	84~89%	84%未満	A	B	C	D	10回以上	9回	8回	8回未満			
A	B	C	D																	
95~100%	90~94%	84~89%	84%未満																	
A	B	C	D																	
10回以上	9回	8回	8回未満																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																				
第2学年部	生徒の希望進路実現に向け、学習習慣及び読書習慣の定着を図り、さらなる学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会、SHRを通じて家庭学習・読書活動の習慣化を推進し、学力の向上を目指す。 <p>[毎日の家庭学習を1.5時間以上取り組む生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80～89%</td> <td>70～79%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table> <p>[1年間で生徒の読んだ本の冊数(平均)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10冊以上</td> <td>8・9冊</td> <td>6・7冊</td> <td>6冊未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80～89%	70～79%	70%未満	A	B	C	D	10冊以上	8・9冊	6・7冊	6冊未満						
	A	B	C	D																				
	90%以上	80～89%	70～79%	70%未満																				
A	B	C	D																					
10冊以上	8・9冊	6・7冊	6冊未満																					
基本的な生活習慣の定着及び人権意識の向上を図り、社会人として必要な資質の獲得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の指導の積み重ねと保護者等との連携により以下の3つの目標を達成できるように努める。 <ol style="list-style-type: none"> 授業規律報告書を前年比で50%減少させる。[昨年度9回] 特別指導生徒を前年比で50%減少させる。[昨年度6人] 授業の遅刻・早退者を前年比で30%減少させる。[昨年度71人] <p>[目標の達成件数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3件達成</td> <td>2件達成</td> <td>1件達成</td> <td>達成なし</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3件達成	2件達成	1件達成	達成なし															
A	B	C	D																					
3件達成	2件達成	1件達成	達成なし																					
資格取得や学校行事・ボランティア等の経験を通じて生徒一人一人のキャリアアップを推進し、主体性及び自己有用感を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得を推進し、生徒のキャリアアップを図る。 <p>[1人当たりの資格・検定取得数(平均)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>4個以上</td> <td>3個</td> <td>2個</td> <td>2個未満</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行や学校祭等の取組において、一人一役を担当させた上で、自己の役割を遂行させ、責任を完遂する力を養う。 <p>[年間の行事における、個人の役割分担数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3件</td> <td>2件</td> <td>1件</td> <td>1件未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	4個以上	3個	2個	2個未満	A	B	C	D	3件	2件	1件	1件未満							
A	B	C	D																					
4個以上	3個	2個	2個未満																					
A	B	C	D																					
3件	2件	1件	1件未満																					
第3学年部	学力向上と希望進路の実現を通してキャリアアップを図る	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な指導の積み重ねにより生徒の進路意識の向上を図り、他分掌等とも連携を深めることで、昨年度の実績に迫る結果を残す。 <p>[第1希望内定・合格率] (昨年度一次内定率93%、合格率91%)</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>85～89%</td> <td>80～84%</td> <td>80%未満</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 本校ならではの資格、検定取得を推進してキャリアアップを図り、昨年度の実績を上回る。 <p>[教育長表彰率(上段)、マリンマイスター認定率(下段)] (昨年度教育長表彰88.7%、マリンマイスター認定率64%)</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>89%以上</td> <td>78～88%</td> <td>68～77%</td> <td>68%未満</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>62～74%</td> <td>54～61%</td> <td>54%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	85～89%	80～84%	80%未満	A	B	C	D	89%以上	78～88%	68～77%	68%未満	75%以上	62～74%	54～61%	54%未満		
A	B	C	D																					
90%以上	85～89%	80～84%	80%未満																					
A	B	C	D																					
89%以上	78～88%	68～77%	68%未満																					
75%以上	62～74%	54～61%	54%未満																					

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
第3学年部	学力向上と希望進路の実現を通してキャリアアップを図る	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な指導の積み重ねと教科等との連携を深めることで、次の目標5項目の達成を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> 1 考查前学習時間が平均2時間以上の延べ生徒割合を80%以上とする。 2 欠課通知カード(10%)を昨年度比で30%減少させる。(昨年度145人) 3 学年末の評価平均値を7.0以上にする。(昨年度7.0) 4 学年末の成績優秀生徒数を24人以上にする。(昨年度24人) 5 学年末における不認定科目数を0とする。 [達成できた項目数] <table border="1" data-bbox="792 368 1489 435"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5項目</td> <td>4項目</td> <td>3項目</td> <td>3項目未満</td> </tr> </table> ※上記の学年目標に則して、各クラスで目標値を設定する。 	A	B	C	D	5項目	4項目	3項目	3項目未満		
	A	B	C	D								
5項目	4項目	3項目	3項目未満									
自律と自立を目標に、基本的な生活習慣の定着と心の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な指導の積み重ねと保護者等との連携により、規範意識と人権意識の向上を図ることにより、次の目標5項目の達成を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律指導報告を昨年度比で30%減少させる。[昨年度8日] 2 頭髪服装指導件数を昨年度比で30%減少させる。[昨年度61件] 3 特別指導件数を受け取る生徒の延べ人数を昨年度比で30%減少させる。[昨年度14件] 4 卒業式において、指導を受け取る生徒をなくす。 5 生徒会や委員会等の活用で生徒の自主的活動を5件以上取り組む。 [達成できた項目数] <table border="1" data-bbox="792 775 1489 842"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5項目</td> <td>4項目</td> <td>3項目</td> <td>3項目未満</td> </tr> </table> 	A	B	C	D	5項目	4項目	3項目	3項目未満			
A	B	C	D									
5項目	4項目	3項目	3項目未満									
海洋科学科	日常の授業・実習を通して、思考力や表現力、自己有用感や主体性を育むことで、希望進路実現に向かって自ら歩む力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 科目「総合実習」及び「課題研究」、各種レポート作成においてルーブリックを作成し、評価規準を明確にする。 [ルーブリックによるレポート作成(再提出指導・面談回数/生徒数、平均)] <table border="1" data-bbox="792 948 1489 1015"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回以上</td> <td>2.5回</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回以上	2.5回	2回	2回未満		
		A	B	C	D							
		3回以上	2.5回	2回	2回未満							
		<ul style="list-style-type: none"> 進路面談、面接練習を通して、きめ細かい進路指導を実施する。 [3年生の面接・面談実施の平均回数(実施回数/生徒数、平均)] <table border="1" data-bbox="792 1114 1489 1181"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回以上</td> <td>2.5回</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回以上	2.5回	2回	2回未満		
A	B	C	D									
3回以上	2.5回	2回	2回未満									
<ul style="list-style-type: none"> 校外における研究・実践発表等への参加を積極的に推進する。 [校外での発表回数] <table border="1" data-bbox="792 1273 1489 1340"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>4・5回</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	4・5回	3回	3回未満				
A	B	C	D									
6回以上	4・5回	3回	3回未満									
<ul style="list-style-type: none"> 第3学年において、希望進路の実現に努め、昨年度の実績に迫る結果を残す。 [四年制大学第1志望合格率] (昨年度90.4%) <table border="1" data-bbox="792 1442 1489 1509"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>79~99%</td> <td>60~78%</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	79~99%	60~78%	60%未満				
A	B	C	D									
100%	79~99%	60~78%	60%未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
海洋科学科	OJTの観点から、教員の専門性を高めるとともに、幅広い視野を備えた、質の高い教育活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自らが学ぶ姿勢を示すことで、生徒の学ぶ意欲を引き出す。 [スキルアップのための自己研修（平均回数）]（昨年度1回） <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	3回未満		
		A	B	C	D							
5回以上	4回	3回	3回未満									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や関係機関、大学等との連携を推進する。 [校外での実習・協同作業実施回数（京都府北部地域内）] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回以上</td> <td>7～9回</td> <td>4～6回</td> <td>4回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10回以上	7～9回	4～6回	4回未満				
A	B	C	D									
10回以上	7～9回	4～6回	4回未満									
航海船舶コース	<p>常に緊張感を持って実習に臨ませるとともに、最新の情報収集に努め、航海の安全を確保する。 また、実習の様子等をタイムリーに発信することで、保護者の安心につなげる。 （短期経営目標5「安心・安全の徹底」、同9「家庭、地域との連絡及び連携の強化」）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアトライアルの事後に生徒アンケートを実施し、反省検討の材料とする。 [生徒アンケートの肯定的な回答、「緊張感を持って取り組めた」の割合] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92%以上</td> <td>85～91%</td> <td>78～84%</td> <td>78%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	92%以上	85～91%	78～84%	78%未満		
		A	B	C	D							
	92%以上	85～91%	78～84%	78%未満								
<ul style="list-style-type: none"> ・ GLOBE観測やキャリアトライアル実施後、翌週には学校ホームページに掲載する。 [ホームページ更新回数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40回以上</td> <td>32～39回</td> <td>24～31回</td> <td>24回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	40回以上	32～39回	24～31回	24回未満				
A	B	C	D									
40回以上	32～39回	24～31回	24回未満									
<p>知的財産に関する能力を育成する教育活動を積極的に導入する。 （短期経営目標4「さらなる高みを目指す専門教育の推進」同8「外部機関との連携」）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に引き続き指定を受けた「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」に則して授業・指導活動を実践し、地域交流・研究協議会及び報告会に参加する。 [取組件数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10件以上</td> <td>7～9件</td> <td>4～6件</td> <td>4件未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10件以上	7～9件	4～6件	4件未満			
A	B	C	D									
10件以上	7～9件	4～6件	4件未満									
<p>専門性の高い資格を取得（合格）させ、関連の進路（進学）先で活躍できる人材を育成する。 （短期経営目標1(4)「学習する習性を身に付けさせ、安定して学習と向き合う生徒を育む。」同3(3)「主体性の育成」）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三・四級海技士（航海）筆記試験合格、第二級海上特殊無線技士及び一・二級小型船舶操縦士の資格を取得させる。 ※数値目標：海技士三級3名・四級6名、二級海上特殊無線技士7名、小型船舶操縦士二級13名・一級6名 [上記項目達成数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5項目以上</td> <td>4項目</td> <td>3項目</td> <td>3項目未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5項目以上	4項目	3項目	3項目未満			
A	B	C	D									
5項目以上	4項目	3項目	3項目未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
海洋技術コース	<p>マリンエンジニアに関わる専門性の高い教科指導等により、将来のスペシャリストを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験潜水士合格率を高めるとともに、潜水技術検定1級の取得に努め、昨年度に迫る実績を残す。 <p>[潜水士合格率] (昨年度90%)</p> <table border="1" data-bbox="790 209 1489 276"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>80%以上</td><td>70~79%</td><td>60~69%</td><td>60%未満</td></tr> </table> <hr/> <p>[潜水技術検定1級取得者数] (昨年度9人)</p> <table border="1" data-bbox="790 316 1489 383"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>10人以上</td><td>8・9人</td><td>6・7人</td><td>6人未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70~79%	60~69%	60%未満	A	B	C	D	10人以上	8・9人	6・7人	6人未満		
	A	B	C	D																
	80%以上	70~79%	60~69%	60%未満																
A	B	C	D																	
10人以上	8・9人	6・7人	6人未満																	
<p>校内外における連携強化により、特色ある実習製品のブランド価値向上とエコサイクルの確立を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヒトデ・ウニ堆肥の連携販売量を増やし、販売を促進する。 <p>[販売量] (昨年度250袋)</p> <table border="1" data-bbox="790 475 1489 542"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>420袋以上</td><td>300~419袋</td><td>250~299袋</td><td>250袋未満</td></tr> </table> <hr/> <p>[堆肥製造や活用等の連携回数] (昨年度8回)</p> <table border="1" data-bbox="790 598 1489 665"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>10回以上</td><td>8・9回</td><td>6・7回</td><td>6回未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	420袋以上	300~419袋	250~299袋	250袋未満	A	B	C	D	10回以上	8・9回	6・7回	6回未満			
A	B	C	D																	
420袋以上	300~419袋	250~299袋	250袋未満																	
A	B	C	D																	
10回以上	8・9回	6・7回	6回未満																	
<p>企業見学や業務体験、講演等により生徒の専門性や進路意識の向上を図り、希望進路の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海洋技術コースの専門内容に関わる企業見学や現場見学、業務体験、講演等を生徒対象に実施し、コースに関わる進路指導へと繋げ、昨年度に迫る実績を残す。 <p>[企業見学や業務体験、講演等の実施回数]</p> <table border="1" data-bbox="790 818 1489 885"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>5回以上</td><td>4回</td><td>3回</td><td>3回未満</td></tr> </table> <hr/> <p>[関連進路先の内定・合格率] (昨年度70%)</p> <table border="1" data-bbox="790 938 1489 1005"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>70%以上</td><td>60~69%</td><td>50~59%</td><td>50%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	3回未満	A	B	C	D	70%以上	60~69%	50~59%	50%未満			
A	B	C	D																	
5回以上	4回	3回	3回未満																	
A	B	C	D																	
70%以上	60~69%	50~59%	50%未満																	
	<p>学力向上を目指し、生徒の積極性や意欲を引き出すことができる教科指導力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コース担当教員の授業参観や専門研修を通じて専門性を高めるとともに、授業力向上を図る。 <p>[授業参観・研修回数] (昨年度7回)</p> <table border="1" data-bbox="790 1121 1489 1189"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>8回以上</td><td>7回</td><td>5・6回</td><td>5回未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7回	5・6回	5回未満										
A	B	C	D																	
8回以上	7回	5・6回	5回未満																	
栽培環境コース	<p>多様化する生徒状況に対応しながら、専門的な授業や実習の学習成果を生徒たちと感じさせ、自己有用感を高めるとともに、希望進路の実現に向けた実力を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主力生産物であるホンモロコの販路拡大に向けた技術開発件数を増加させる。 <p>[技術開発件数]</p> <table border="1" data-bbox="790 1265 1489 1332"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>6件以上</td><td>4・5件</td><td>2・3件</td><td>2件未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	6件以上	4・5件	2・3件	2件未満										
		A	B	C	D															
6件以上	4・5件	2・3件	2件未満																	
<ul style="list-style-type: none"> 資格取得の成果による教育長表彰の対象生徒数を増加させる。 <p>[対象生徒の割合] (昨年度80%)</p> <table border="1" data-bbox="790 1441 1489 1508"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>100%</td><td>80~99%</td><td>70~79%</td><td>70%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	100%	80~99%	70~79%	70%未満												
A	B	C	D																	
100%	80~99%	70~79%	70%未満																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
栽培環境コース	<p>個別相談等を実施しながら適宜アドバイスを行い、関連進路先を始めとした希望進路の実現を目指させる。</p>	<p>・第1希望進路先への内定・合格率100%を目指す。 [第1志望内定・合格率]</p> <table border="1" data-bbox="790 240 1489 311"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>90~99%</td> <td>80~89%</td> <td>80%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	90~99%	80~89%	80%未満										
	A	B	C	D																
100%	90~99%	80~89%	80%未満																	
<p>地域創生につながる教育活動を展開し、地域の方々や外部機関との連携を図りながら、栽培環境コースとして発展的に研究活動や協働作業に取り組む。</p>	<p>・研究内容や活動状況等の外部への発表、説明等を励行する。 [発表、説明回数]</p> <table border="1" data-bbox="790 411 1489 481"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>3・4回</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	3・4回	2回	2回未満											
A	B	C	D																	
5回以上	3・4回	2回	2回未満																	
食品経済コース	<p>関係諸機関や他分掌との連携を推進し、落ち着いた学習環境を維持する。</p>	<p>・各実習におけるレポート提出の徹底を図る。 [レポート提出率]</p> <table border="1" data-bbox="790 580 1489 651"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>85~94%</td> <td>70~84%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table> <p>・教員によるログノートの点検を励行する。 [ログノート点検回数/年]</p> <table border="1" data-bbox="790 754 1489 825"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>9回</td> <td>8回</td> <td>8回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	85~94%	70~84%	70%未満	A	B	C	D	10回以上	9回	8回	8回未満		
	A	B	C	D																
	95%以上	85~94%	70~84%	70%未満																
A	B	C	D																	
10回以上	9回	8回	8回未満																	
<p>コース内での連携を十分に行い、希望進路の実現を目指す。</p>	<p>・コース会議を励行する。 [コース会議実施回数]</p> <table border="1" data-bbox="790 930 1489 1000"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>35回以上</td> <td>34回</td> <td>33回</td> <td>33回未満</td> </tr> </table> <p>・一次内定率の増加を図る。 [一次内定率]</p> <table border="1" data-bbox="790 1104 1489 1174"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>85~94%</td> <td>70~84%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	35回以上	34回	33回	33回未満	A	B	C	D	95%以上	85~94%	70~84%	70%未満			
A	B	C	D																	
35回以上	34回	33回	33回未満																	
A	B	C	D																	
95%以上	85~94%	70~84%	70%未満																	
<p>これまで指定を受けている事業「宮津市大和学園料理メニュー・特産品開発アドバイザー事業」「宮津市社会福祉協議会福祉協力校」や地元企業と連携している事業「京都府地域力再生プロジェクト支援事業」に加え、「京都府産業教育改善に関する特別研究」を申請し、地元の活性化を図る。</p>	<p>・指定事業を活用し、研究活動を深化させる。 [指定事業数]</p> <table border="1" data-bbox="790 1281 1489 1351"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5件以上</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5件以上	4件	3件	3件未満											
A	B	C	D																	
5件以上	4件	3件	3件未満																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
国語科	基礎学力の定着と国語に対する意欲・関心を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 府立高校実力テストにおいて、成績を向上させることで一般入試にも対応できる学力を身に付ける。特に進学補習を通じて、古典・漢文の学習を強化し、スタディサプリの導入により、更なる国語力の向上を目指す。 <p>[1,2年生の1月府高実力テスト偏差値60以上の生徒数] (昨年度1年:30人、2年:22人)</p> <table border="1" data-bbox="790 347 1489 418"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61人以上</td> <td>58～60人</td> <td>53～57人</td> <td>53人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	61人以上	58～60人	53～57人	53人未満										
		A	B	C	D															
		61人以上	58～60人	53～57人	53人未満															
<ul style="list-style-type: none"> 国語の基礎力を向上させるため、語彙力、思考力、表現力、集中力を伸ばす。そのため、漢字テスト、語彙力テストを実施する。特に、漢字テストの実施により、漢字検定に対する意識を高める。進学補習を通して受検を呼びかけるとともに、過去問題を配布するなどして意欲・関心を高めるとともに、3級以上の合格者数の増加を目指す。 <p>[漢字検定の3級以上の合格者数] (昨年度40人)</p> <table border="1" data-bbox="790 624 1489 694"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55人以上</td> <td>49～54人</td> <td>41～48人</td> <td>41人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	55人以上	49～54人	41～48人	41人未満												
A	B	C	D																	
55人以上	49～54人	41～48人	41人未満																	
<p>[語彙力テストの実施回数]</p> <table border="1" data-bbox="790 751 1489 821"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15回以上</td> <td>11～14回</td> <td>7～10回</td> <td>7回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	15回以上	11～14回	7～10回	7回未満												
A	B	C	D																	
15回以上	11～14回	7～10回	7回未満																	
地歴・公民科	<p>「学びの習性」を付ける学習指導の徹底を図る。観点別学習状況の評価を充実させ、全ての生徒に確かな学力を身に付けさせるとともに、積極的な検定受検を喚起することで、地歴・公民科に対する関心意欲態度を醸成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価の[技能][思考・判断・表現]を統括的に評価するパフォーマンス課題(全学年、各学期1回、10点)において、平均得点を向上させる。 <p>[パフォーマンス課題の平均得点] (昨年度7.0)</p> <table border="1" data-bbox="790 954 1489 1024"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9.5点以上</td> <td>8.5～9.4点</td> <td>7.5～8.4点</td> <td>7.5点未満</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ニュース時事能力検定において昨年度合格者を上回る実績を残す。 <p>[ニュース時事能力検定3級合格者(1年)] (昨年度23名)</p> <table border="1" data-bbox="790 1125 1489 1195"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26人以上</td> <td>23～25人</td> <td>20～22人</td> <td>20人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	9.5点以上	8.5～9.4点	7.5～8.4点	7.5点未満	A	B	C	D	26人以上	23～25人	20～22人	20人未満		
	A	B	C	D																
9.5点以上	8.5～9.4点	7.5～8.4点	7.5点未満																	
A	B	C	D																	
26人以上	23～25人	20～22人	20人未満																	
<p>「大学入学共通テスト」、「高校生のための学びの基礎診断」、次期学習指導要領で設置される「地理総合」「公共」等の教育改革を見据えた授業展開を行い、将来を見据えた授業改善に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の手法を年間通じて行い、授業評価において、学力向上や意欲的な授業、満足度が高いと感じる授業を展開する。 <p>[授業評価における[4項目]で評価1をつけた生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="790 1329 1489 1399"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>90～99%</td> <td>80～89%</td> <td>80%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	90～99%	80～89%	80%未満											
A	B	C	D																	
100%	90～99%	80～89%	80%未満																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
数学科	<p>数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。 また、検定合格に向けた学習を通して、苦手分野を克服すると共に、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業、進学補習等で教科担当者が積極的に数学検定の受検を呼びかけ、受検者の増加を目指す。 <p>[数学検定受検者数] (昨年度29人)</p> <table border="1" data-bbox="790 225 1489 292"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36人以上</td> <td>31～35人</td> <td>26～30人</td> <td>26人未満</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 数学検定準2級合格者数の増加を図る。 <p>[数学検定準2級合格者数] (昨年度1人)</p> <table border="1" data-bbox="790 384 1489 451"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10人以上</td> <td>7～9人</td> <td>4～6人</td> <td>4人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	36人以上	31～35人	26～30人	26人未満	A	B	C	D	10人以上	7～9人	4～6人	4人未満		
	A	B	C	D																
	36人以上	31～35人	26～30人	26人未満																
	A	B	C	D																
10人以上	7～9人	4～6人	4人未満																	
<p>希望進路実現のため、確かな学力を身に付けさせ、数学の学習を通して自己有用感を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の第2回府立高校実力テスト(A問題)における成績上位者を増やす。 <p>[偏差値60以上の生徒数] (昨年度30人)</p> <table border="1" data-bbox="790 544 1489 611"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35人以上</td> <td>30～34人</td> <td>25～29人</td> <td>25人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	35人以上	30～34人	25～29人	25人未満											
A	B	C	D																	
35人以上	30～34人	25～29人	25人未満																	
<p>授業力向上、又は、大学入学共通テストの指導に活かせるように、同じ教科のみならず、他教科の授業参観を行い、今後の指導に活かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他教科を含め、授業参観を励行する。 <p>[年間の授業参観回数の合計]</p> <table border="1" data-bbox="790 703 1489 770"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18回以上</td> <td>14～17回</td> <td>10～13回</td> <td>10回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	18回以上	14～17回	10～13回	10回未満											
A	B	C	D																	
18回以上	14～17回	10～13回	10回未満																	
理科	<p>希望進路の実現に向けて、学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間において授業参観を12回以上行い、新たな知見を得ることで授業力の向上を図る。 「主体的・対話的で深い学び」による授業展開を各講座で10回以上行い、生徒の深い学びを図る。 海洋プロジェクト(発展)の学習方法や内容の改善により、センター試験理科の基礎科目において、70点以上の生徒が2名以上出るように指導する。 「主体的・対話的で深い学び」やICT活用等、授業の進め方について、研修会や講座に年間3回以上参加し、授業に関する研修を積む。 電子黒板の活用について研修し、その使用法に習得するとともに、授業において、年間、12回以上活用する。 生徒実験の回数を各講座で年間3回以上とし、より深く実感を持って理解できる授業作りに努める。 <p>[上記6項目中の達成できた項目数]</p> <table border="1" data-bbox="790 1166 1489 1233"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5件以上</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5件以上	4件	3件	3件未満										
		A	B	C	D															
5件以上	4件	3件	3件未満																	
<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の手法やICTを活用した授業を実施することで、生徒の学習意欲を喚起しつつ、宿題や課題、小テストの反復実施により、学習した内容を使って、教科書レベルの問題からセンター試験の平易な問題に対応できるレベルまで学力を伸ばす。 <p>[学年末の担当科目の授業評価平均値]</p> <table border="1" data-bbox="790 1422 1489 1489"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.9以上</td> <td>7.7～7.8</td> <td>7.4～7.6</td> <td>7.4未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	7.9以上	7.7～7.8	7.4～7.6	7.4未満												
A	B	C	D																	
7.9以上	7.7～7.8	7.4～7.6	7.4未満																	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
保健体育科	授業時における挨拶や、服装を徹底することにより社会性の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時の服装違反を減少させる。 [違反生徒の減少率] (昨年度324件) <table border="1" data-bbox="790 331 1489 400"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20%以上減</td> <td>10～19%</td> <td>5～9%</td> <td>5%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20%以上減	10～19%	5～9%	5%未満		
	A	B	C	D								
	20%以上減	10～19%	5～9%	5%未満								
遅しい生徒を育成するため、体力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 15分間走において、昨年度の平均記録8,996mを更新する。 [昨年度との差] <table border="1" data-bbox="790 502 1489 571"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100m以上</td> <td>51～99m</td> <td>1～50m</td> <td>減少</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100m以上	51～99m	1～50m	減少			
A	B	C	D									
100m以上	51～99m	1～50m	減少									
学習成果発表の機会を設けることにより、生徒の出番を作り、自己有用感の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習成果発表の機会を増やす。 [学習成果発表の実施回数 (生徒1人につき)] <table border="1" data-bbox="790 671 1489 740"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4回以上</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	4回以上	3回	2回	1回			
A	B	C	D									
4回以上	3回	2回	1回									
芸術科	生徒一人一人が作品と向き合う中で、美術に苦手意識を持つ生徒も意欲的に制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に制作活動に取り組み、作品を期限内に完成させ、提出する。 [期限内の作品提出状況] <table border="1" data-bbox="790 837 1489 906"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>90～99%</td> <td>70～89%</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	90～99%	70～89%	70%未満		
A	B	C	D									
100%	90～99%	70～89%	70%未満									
英語科	授業力の向上及び生徒に学習する習性を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な学習指導 (週末課題や小テスト等) の実施により、学習する習性を身に付けさせ、生徒の学力向上に努める。 [英検準2級と3級の過去問題の平均得点率の変化] <table border="1" data-bbox="790 1034 1489 1102"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10%以上増</td> <td>8～10%増</td> <td>3～7%増</td> <td>3%未満の増</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10%以上増	8～10%増	3～7%増	3%未満の増		
		A	B	C	D							
10%以上増	8～10%増	3～7%増	3%未満の増									
<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」実現の視点から、対話を通して考える時間を十分確保し、解決策や答えを深めていくような建設的な授業改善を目指す。教科内での授業公開を実施し、共有する指導目標の明確化を図り、生徒の学力向上に繋げる。 [教科内での授業参観回数] <table border="1" data-bbox="790 1289 1489 1358"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20回以上</td> <td>15～19回</td> <td>10～14回</td> <td>10回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20回以上	15～19回	10～14回	10回未満				
A	B	C	D									
20回以上	15～19回	10～14回	10回未満									

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題																
英語科	<p>大学入学共通テスト導入に向けて、英語学習に対する自己肯定感と自己有用感を高め、4技能向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自学自習が習性となるような指導を心掛け、英語学習に対する苦手意識を改善する。 [英語学習に対する自己有用感の上昇者数の割合] <table border="1" data-bbox="790 316 1489 386"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18%以上増</td> <td>15～17%増</td> <td>10～14%増</td> <td>10%未満</td> </tr> </tbody> </table> ・ 授業中にスピーキングに焦点を当てた時間を確保し、AETと連携して、生徒の英語での自己表現能力の育成を図る。 [スピーキングテスト実施回数（講座当たり）] <table border="1" data-bbox="790 512 1489 582"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> </tr> </tbody> </table> 	A	B	C	D	18%以上増	15～17%増	10～14%増	10%未満	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	3回未満		
A	B	C	D																	
18%以上増	15～17%増	10～14%増	10%未満																	
A	B	C	D																	
5回以上	4回	3回	3回未満																	
家庭科	<p>人の一生と家族、家庭及び福祉、衣食住、消費生活等に関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活に関する基礎知識等の学習課題への解答を徹底する。 [学習課題の解答割合] <table border="1" data-bbox="790 671 1489 742"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>90～99%</td> <td>75～89%</td> <td>75%未満</td> </tr> </tbody> </table> ・ 生活を充実・向上させるために必要な基礎的、基本的な技術を身に付けさせる。 [衣食住の各分野における実習実施回数] <table border="1" data-bbox="790 852 1489 922"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> </tr> </tbody> </table> (衣食住の各分野からバランスよく実施する。) 	A	B	C	D	100%	90～99%	75～89%	75%未満	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	3回未満		
A	B	C	D																	
100%	90～99%	75～89%	75%未満																	
A	B	C	D																	
5回以上	4回	3回	3回未満																	
学校関係者 評価委員会 による評価																				
次年度への 改善の方向性																				